

自然に昏睡状態に入る

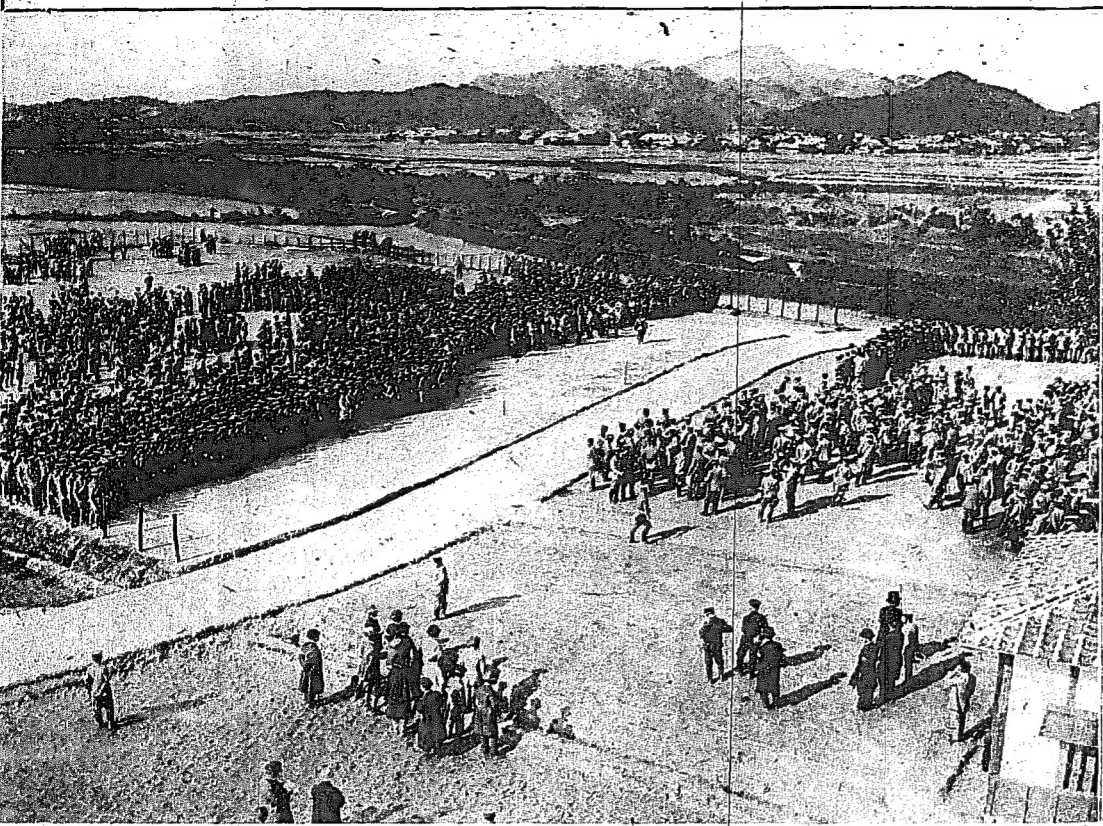
吉原前東部警察署長 昨夜迄至極元氣

吉原前東部警察署長は十六日午前三時、東京市警視庁で昏睡状態に陥り、翌日午後一時、同署で死去した。享年七十八歳。死因は心臓病。死後、同署で解剖が行われ、心臓に病変が認められた。死後、同署で解剖が行われ、心臓に病変が認められた。死後、同署で解剖が行われ、心臓に病変が認められた。

首席入學の秀才

寄宿舎で隣室に居た

吉原前東部警察署長は、生前、法律の秀才として知られていた。生前、法律の秀才として知られていた。生前、法律の秀才として知られていた。生前、法律の秀才として知られていた。生前、法律の秀才として知られていた。



てに庭々校學農屋縣福一評講御下陸帥元大

閑閑終りて

御講評場に参集する帝國陸軍の主腦

大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。

殊勳の勇士

金竹騎兵少尉 北軍騎兵隊

大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。大演習が終つた。

大猪

四名を傷く

近頃、東京市警視庁で、大猪が暴れ回っている。近頃、東京市警視庁で、大猪が暴れ回っている。近頃、東京市警視庁で、大猪が暴れ回っている。近頃、東京市警視庁で、大猪が暴れ回っている。近頃、東京市警視庁で、大猪が暴れ回っている。

大島 久米

薩摩藩 久米

大島 久米。大島 久米。大島 久米。大島 久米。大島 久米。大島 久米。大島 久米。大島 久米。大島 久米。大島 久米。

無門會

十一月無門會

無門會。

小島中尉

佐野大尉

小島中尉。

大猪

四名を傷く

大島 久米

薩摩藩 久米

無門會

十一月無門會

小島中尉

佐野大尉

高麗人蔘

近來京城府内に於て弊社名を盗用し營利の奸策を弄する者あり

高麗人蔘

近來京城府内に於て弊社名を盗用し營利の奸策を弄する者あり

高麗人蔘

近來京城府内に於て弊社名を盗用し營利の奸策を弄する者あり

高麗人蔘

近來京城府内に於て弊社名を盗用し營利の奸策を弄する者あり

宮本武藏

第二百十九席
柳川如燕口實
浪上義三郎速記

宮本「二天は離れ座敷を出て母家に歸つて参りました處。小才治は待兼ねて小才氏如何でござる。」
「小才次郎は漢江橋何うも拙者の考へでは些と合點が叶ふことがござる。理由は此處では申さんが正しく小才夫婦の辭に相違あるまいと承知いたす。然し假初にも御老母に姿を變へて居るものゝ一過が有つてはならん」と小才次郎を俵れて己が居室に引取り襦袢を穿て、

吳竹を切削いたるかと思はれます様に就ち、紐の舌を以て腰の傷所穿て居る工合は擬ふかたなき様。二天此時に至つて「如何に小才殿、正體に兒届けたり取違さんういたされよ」ソレ乘込めとあつたるから心得たりと襦を縫開き大刀携げましてヅカ／＼進み入る。老母は是を見て「母コレ／＼小才次郎は何うしたすつた。見れば刀を携



て今頃何で醫居所へ來なすつた、でも狂つたのか、狼狽したことをしはなりません、オヤ宮本までが一に刀を擡げて、恐し妾をしてお前は何うしたのだ、小「ヤア云ふな化けは汝は父小太夫の敵、只今父の無念な

院長 醫學士 森 定士

京城本町二丁目
 瓦斯會社向側
 芙蓉醫藥

待つて居ます、彼は夜のもう八ツにもなうといふ時分、絨と寝替つた居ります、三人は密に離れの次の室に來て、覗いて見ると、老母は床の上に座り直り頻りに吾を叫出して腰を骨で居る、其の兩眼の光は炯々として物凄く輝き渡り、耳は暗ず、小才次が怒みの太刀先を差は

[illegible][illegible][illegible][illegible][illegible][illegible]

試上慢性經痛、
 治癒する症候、
 八十八歳、
 八拾七歳、
 東京、
 日新館製劑部

467 し製創の

七日のツケ 鏡をどうも色白くするがゼンノ液

今東京で大評判の元素液色黒き顔赤き顔日ヤケおしろいヤケアレを防ぎキメをコマカに麗に色白く美人美男子となる薬の製造店小問物化粧品店にあり近所に品切の時は切手代用郵送附あれ送ります 空料内地外均同 東京神田區錦旗 松本薬店

小瓶 二十銭
大瓶 四十銭

帝大醫學藥學博士多數實驗の結果理想的治淋劑を確定せる

淋病新藥

リソール

●創起地通に反賀 發賣元 東京市日本橋區川箱町十一番地 ツオール商會

代理店

▲説明書無料贈呈す 大阪西區修町 田邊五兵衛

本品は殺菌力強大にして絕對に胃腸に害を害せず、膀胱カタル、尿道炎、睪丸炎、腎臟炎、消渴等、其他一般急性、慢性、淋病に偉効を奏す

三十粒 五十銭
五十粒 八十五銭
百粒 一圓五十銭
廿五瓦 八十銭

髮手入

髪は人の良き人には愈々良く悪き人は一度で忽ち漆の黒さとする

植物性美毛劑加味

ホーカー美髮液

（一）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（二）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（三）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（四）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（五）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（六）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（七）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（八）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（九）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

（十）所産純良の樟油を用いて、秘製したる作用にして、不変の色髪を育み、くしくし、髪を直し、即垢を払い、香く、髪に於いて、保水、品を、し、髪を、黒く、艶を、出、す、

二 ほまれ味噌

製造元 日本醬油株式會社 京城出張所

美^び顔^が
愛用者の寄書
(其四)
東京 藤田 静子
大蔵

「ユー・マー」

私は、或會社の女事務員で御座いますが、御化粧には随分苦心致して居ります。それに人一倍荒性なので困つて居りました。處が美顔ユー・マーが賣り出されてから間もない頃、これは今度出來たのだが大變評判がいいから、といつて一瓶叔母さんから戴きましたので、早速使つて見ると驚きました。あれ程荒れて居た顔が、わづかの間に違へる程すべくしてまゐりました。此頃御顔の荒れた御方を御見掛けしますと、まだ美顔ユー・マーを御存じないのか、わらと思ふ事が御座います。

276,169.17

東京 桃谷順天館

京城日報

刊初日八十 (買八てせ合に刊タ)

日支交渉

日支交渉の進展を待つことは、我が國の前途に對する重大なる問題である。日支交渉の進展を待つことは、我が國の前途に對する重大なる問題である。日支交渉の進展を待つことは、我が國の前途に對する重大なる問題である。

露國の金吸収策

露國の金吸収策は、露國の財政政策の重要な一環である。露國の金吸収策は、露國の財政政策の重要な一環である。露國の金吸収策は、露國の財政政策の重要な一環である。

清津港の改良

清津港の改良は、清津港の発展に重要な一環である。清津港の改良は、清津港の発展に重要な一環である。清津港の改良は、清津港の発展に重要な一環である。

蘇峰文選

一萬部限定特價圓八拾錢

糖燐酸

快事

新圖書

新圖書

炭煉煙無壤平るな用徳價安も最

冬季來たる!! 此際經濟的燃料としては 平壤無煙煉炭に限る

炭界活躍各炭暴騰せるに 平壤無煙煉炭に限り絶對値上せず

一手販賣 三井物産株式會社

開城以南特約店 平壤、鎮南 中村組

開城以北特約店 平壤、鎮南 中村組

粘土入 炭煉煙無煙煉炭に比し登順に付き 武圓即ち壹圓約壹厘六毛高價なり此煉炭は粘土入煉炭と區別の爲め穴は兩端二個にして中央に一の字の刻印を付す

需要先 朝鮮總督府諸官廳、李王職、朝鮮ホテル其他

炭煉煙無煙煉炭に限る

此際理想的燃料としては 平壤無煙煉炭に限る

冬季來たる!!

旅行用具
 製造販賣
 切實
 高木旅
 行用具店
 電話一三四番

コンダツチ總督と語る記

浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ

（京報）

ハロコクでは、戦後、今度の使節、浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。

浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。

浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。

浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。

浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。

浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。浦田では毎日二百六十輛の貨車を造つて一度用ゐたきりで焼いて了ふ。

南大門驛頭に於ける本野大使



大使通過

昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。

昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。

昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。

昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。

昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。昨夜の南大門驛頭。大使の通過。

雪の茂山嶺越

崖の上に虎の下の千の谷

（京報）

雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。

雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。

雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。

雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。

雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。

雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。雪の茂山嶺越。崖の上に虎の下の千の谷。

三百圓の周文

吉原氏の鑑識

（京報）

三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。

三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。

三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。

三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。

三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。

三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。三百圓の周文。吉原氏の鑑識。

京日案内

普通一週一円

（京報）

京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。

京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。

京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。

京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。

京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。

京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。京日案内。普通一週一円。

九重香油 本製 山崎 富の道 山崎 富の道 山崎 富の道

九重香油 本製 山崎 富の道 山崎 富の道 山崎 富の道

九重香油 本製 山崎 富の道 山崎 富の道 山崎 富の道

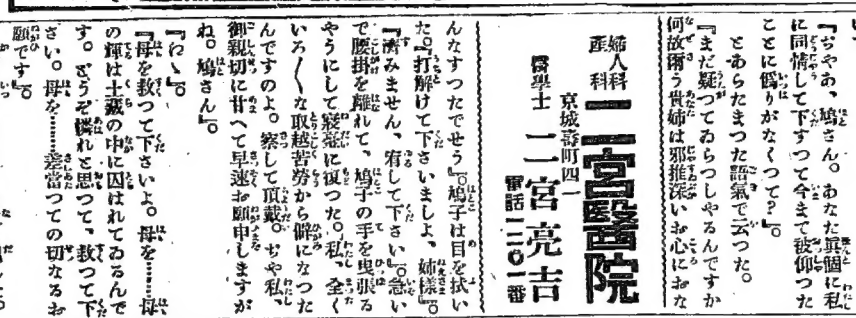
九重香油 本製 山崎 富の道 山崎 富の道 山崎 富の道

九重香油 本製 山崎 富の道 山崎 富の道 山崎 富の道

五

泣くやうな聲を立てゝうたひ始め
た雪歌は、南米の詩人、コルナンヨ
「夕の夕の雪」だつた。

「夕の雪」ぞ、ひかり弱き雪、さ
びしき我身と雪をあはするの歌し
つゝ、さまよひつゝ、鏡しげに雪によ
しません。誇りにもなりません。こ



「ぢやあ、鳩さん。あなた真個に私に同情して下さつて今まで被仰つたことに償りがなかつて？」

「とあらたまつた語氣で云つた。

『まだ疑つてゐらつしやるんですか何故爾う貴婦は邪推深いお心におな

婦人科 一宮醫院

京城市町四一

醫學士 一宮亮吉

電話二二〇一番

んなすつたでせう」鳩子^{はとこ}は目を拭いた。打解けて下さいましよ、姉様^{あねさま}。」
「済みません、宥^{なだ}して下さい。急いで腰掛を離れて、鳩子^{はとこ}の手を曳^ひ張^ひるやうにして、襦袢^{じゆばん}に預つた。私^{わたし}、全くいろ／＼取替^か替^か勞^{らう}から膝^{ひざ}になつたんです。察^さして頂戴^{ごうがい}。ぢや私^{わたし}、御親切^{ごしんせつ}に甘^{あま}へて早速お願^{ごん}申^{まう}しますからね。鳩さん。」
「へい。」
「母を救つて下さいよ。母を……母の輝^{かがや}は土藏^{どそう}の中に囚^こはれてゐるんです。どうぞ憐れ^{れな}れと思つて、救つて下さい。母を……差當^{さあ}つての切^きなるお願^{ごん}です。」

十夜吟
 冬の蠅吟 浮碧樓
 柳のがらくた下したる冬の蠅
 軋を打ち納めたる身内露びく
 飯屋の冬の蠅午から暮
 あこの狩人さき火を踏み消し
 冬の蠅抗の影短か
 待連れ高峰を別る
 爐を這ふて爐に落ちし蠅かな
 獵人に眼照る 爐焚く
 耳口會
 十月三日日暮村居小集、雙手郎
 氏の選也といふの如し
 秘せし興の敵知らぬ夜夜説
 獵装の主従霜の小髯かな
 甲板洗ふ水夫並く朝の霜
 煙のもの霜ふとなく火説 雉子郎

國民經濟學原論

[illegible][illegible][illegible]

胃弱の人は、
用心深く胃弱家は、
澤川博士の言はる
通り飯んで後には害を
残さね胃活を常
に備へて常用し玉へ

胃病



良藥


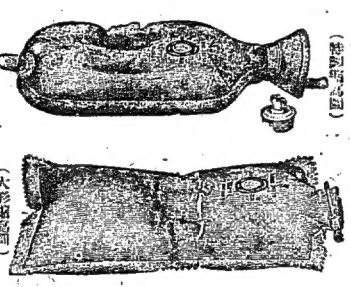

胃弱の人

定價（胃活）二圓、一圓、五拾錢、廿拾錢
 （胃活）一圓、五拾錢、四拾錢、三拾錢
 消費金兩枚海外通用の券（各店にあり）

用心深き胃弱家は浅川博士の言はる通り飲んで後に害を致さぬ胃活を索

て居ますから頭を冷す
縮金も又多年苦心の結
全なるもので素人にも
想的のものであります

（大形銅貨圖）

新案特許—純良護謄網

ミツワ椿油は製造法を改良し、新鮮な油に取寄せ、外皮を悉く取り去り、冷壓法で少

ものの故に、厭ふべき臭氣を發する遊離酸や、含窒素物等を含んで居無
 い、新鮮純良な椿油である。

ミツワ 椿油

平素用つてゐると毛髪に
 入る力は、強いので、毛髪をこ



遊離酸や、含窒素物等を含んで居無



凡ての家庭には必ず一個の水

子供に熱の出た時なすには水枕が最も必要
 缺くべからざるものであります。學生が
 勉強して疲れた時なすは水枕をすれば忽ち
 に元氣を恢復します。

みづわ・みづまくら

○ミヅワ水枕

の内に割壁を設け、中へ氷

然に四字形になるやうに装してありす
 左右に搖れたりチャブチャブしたりす
 となく、其れに兩端が高く中央が凹ん
 も完全であります。
 案出したる、極めて簡便にして且つ完
 にも容易く使用する事の出来る誠に理

東京市日本橋區町四丁目
 丸見屋商店
 電話浪花四四八・四四九・四五〇
 振替口座東京七一〇番

振替口座東京七一〇番

書名 著者 定價
 大正五年版 歩行法令輯覽上下摘
 內閣記録課編纂 特二〇〇

[illegible]

長壽聖品は、
城牛町第六八四、二〇八六番、京坂二五七

「ヨッグルト」
京葉乳業町
荒井牛乳販賣部
電話一〇四四
「荒井の牛乳」

大塚農場自動車部
電話二一七番
大邱出張所

[illegible]

大丸	秀吉丸	君代丸
十一月廿一日	十一月廿八日	十一月廿六日
午後四時出	午後四時出	午後四時出

○神代 十一月十九日 移回 濱中
電話五十九番
○波阿 共同汽船出帆
芝罘大連行 船務部發命船
第一 共同丸 十一月十九日 正午
大連行 芝罘 定明開行 共同丸船主
阿波 共同汽船株式會社
本町四丁目(電話)一七三番
仁川代理店 野口 日商會
元山代理店 田口 日商會
京城取次店 河村 運途

○元	○山	○小
立神宮丸	清津浦鹽行	倉丸
十月	十月	十月
日	日	日
後十時出帆	後五時出帆	

[illegible]

○三浦丸 十一月十七日 釜山發
長承浦、鹽水、巨文島、濟州島各寄港
○海州丸 ○巨濟丸 一日 釜山發

○統籌丸 ○慶寶丸 一日 釜山
名港經由麗水行 三日 一開木浦行
○順天丸 三日 日每二 木浦發
名港經由麗水より釜山行 日毎二
○慶興丸 十一月十九日 木浦發
名港經由麗水行 西開
○慶興丸 十一月廿二日 木浦發
名港經由麗水行 西開

大坂商船出帆

[illegible]

○鎮南浦大連行
○福州丸
○興南浦大連行

十二月八日 正午出帆
十二月十六日

[illegible]